

令和3年度 えびの市立上江小中学校 中学部「学校運営協議会評価書」			
【学校教育目標】 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成			
【めざす児童生徒像】 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題(改善策等)
学力の向上	<p>(1) 授業時数の確保や指導方法の工夫等、組織的な体制づくりに努め、系統性・継続性のある教育課程の実施に努めるとともに、個に応じた指導の充実を進める。</p> <p>(2) 校内研修をとおして、教師一人ひとりの指導力向上と授業改善を図る。</p> <p>(3) 小中一貫校の特色を生かし、学習習慣の定着を図る。</p> <p>(4) 教育課程特例校による「英語表現科」の授業をとおして外国語教の充実を図る。</p>	<p>○ 職員の出張等を予め考慮して時間割を作成することで自習が生じないようにする。</p> <p>○ 3年生は朝の時間に、受験に向けて5教科の学習に取り組みせ、基礎学力の定着を図る。</p> <p>○ 1・2年は朝の時間に、5教科の学習と読書に取り組みせ、基礎学力の定着を図るとともに読解力を身に付けさせる。</p> <p>○ 小中9年間の系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。</p> <p>○ 小学部の数学担当や中学部教頭が中学部1、2年の数学の授業をT2として支援する。</p> <p>○ 全職員が研究授業を実施し、相互に参観することで指導力向上と授業改善を図る。</p> <p>○ 小中で足並みをそろえながら授業に臨む基本的な態度（立腰、学習用具の準備、2分前着席、1分前黙想）の指導を徹底し、望ましい授業態度の育成を図る。</p> <p>○ 「英語表現科」の指導をとおして、社会が求める実践的な英語力の育成を進める。</p> <p>○ 英語検定や漢字検定への積極的な受検を推奨し、学ぶ意欲の向上を図る。</p>	<p>○ 運動会の開催延期や、新型コロナ感染症拡大防止の措置のため、午後の授業をカットした期間があったため、授業時数の確保に苦慮した。本年度末において、授業実施率が100%を1、2%下回る可能性のある教科もあるが、指導しなければならぬ内容については全て年度内に終了する予定である。</p> <p>○ 3年生は、学習補助教材を用いて、朝の学習として5教科の講義・演習の時間を年間をとおして確保したことで、高校受験に必要な基礎学力の定着を図ることができた。（3年生15名中、12名が既に県立高等学校の推薦入学者選抜検査に合格内定、私立高等学校合格者1名、美容専門学校合格者1名、今月8、9日に行われる県立高等学校一般入学者選抜検査を受検する者が1名）</p> <p>○ 中1の数学において小学部の数学担当や中学部の教頭が支援に入り、学力の二極化への対応に努めた。</p> <p>○ 南部教育事務所とえびの市教育委員会による第2回目の学校訪問は、新型コロナ感染症拡大防止のため中止となったが、全職員が研究授業を再度実施し、互いに参観することで、指導力の向上と授業の改善に資することができた。</p> <p>○ 立腰については、生徒の自己評価が低かったので、来年度に向けて生徒の意識の啓発を図る。</p> <p>○ 「英語表現科」を含め英語学習に対する生徒と保護者の満足度が低下した。生徒にとって「わかる授業」や「コミュニケーション能力を高めることのできる授業」を構築する必要がある。</p> <p>○ 生徒は、英語検定や漢字検定に積極的にチャレンジした。（英検5級取得者24名、4級取得者14名、3級取得者11名、準2級取得者1名）（漢検5級10名、4級8名、3級9名、準2級3名 見込を含）</p>
豊かな心の育成	<p>(1) 読書に親しむ生徒の育成を図る。</p> <p>(2) 元気のよいあいさつができる生徒を育成する。</p> <p>(3) 生徒会活動を支援し、望ましい人間関係の醸成を図る。</p> <p>(4) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。</p>	<p>○ 毎月2週間、朝の時間に「読書の時間」を設定し、読書に親しむ態度を育成する。</p> <p>○ 読書感想文コンクールへの取組や多読賞（読書冊数表彰）、「本の紹介」を通して、読書への意欲付けを行う。</p> <p>○ 「朝のあいさつ運動」や部活動をとおして、「自分から先に、相手の目を見て、元気よく」あいさつすることができる生徒の育成を図る。</p> <p>○ 学校行事や生徒会活動をとおして、生徒自らが企画・運営する機会を設定することで達成感や成就感を味わわせながら、生徒の主体性や積極性を育む。</p> <p>○ 人権学習や道徳の授業をとおして、それぞれの個性や違いを尊重し、自他共に認め合う態度及び共感的人間関係の育成を図る。</p> <p>○ 個別の指導計画や教育支援計画を作成し、特別支援教育コーディネータのリーダーシップのもと、支援を要する児童・生徒について小学部と中学部の職員で情報を共有し、共通理解に基づく指導・支援を行う。</p>	<p>○ 朝の時間に「読書の時間」を設定した。また、国語の時間をとおして読書感想文コンクールへの取組を行った。しかし生徒や保護者の評価の結果を見ると意欲的に読書に取り組んでいる状況とは言えないようだ。家庭でも読書に動かしむようなきっかけづくりを工夫する必要がある。</p> <p>○ 個人差はあるが、校内での生徒のあいさつの様子は概ね良い。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため校門前での「あいさつ運動」等の活動が制限されたが、今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため例年に比べ活動が制限されたが、学校行事や生徒会活動をとおして、生徒自らが企画・運営する機会を設定することで達成感や成就感を味わわせながら、生徒の主体性や積極性を育むよう努めた。</p> <p>○ 人権学習や道徳の授業をとおして、互いの個性の尊重し自他共に認め合う態度や共感的人間関係の育成に努めた。</p> <p>○ 宮崎県中央発達障害者支援センター長の水野敦之先生に来校していただき、個々の生徒に対する支援の在り方について助言いただいたことを日頃の指導に生かすことができた。</p>
体力の向上	<p>(1) 小中一貫校の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。</p> <p>(2) 立腰指導の徹底や部活動の推奨をとおして体力の向上を図る。</p>	<p>○ 体力向上プランに基づき、強化すべき項目を中心に、保健体育の授業をとおして、強化を図る。</p> <p>○ 小中合同ロードレース大会の実施をとおして、体力を向上させることの必要性や重要性を理解させるとともに、自主的、意欲的に運動する態度を育成する。</p> <p>○ 授業の始まりと終わりに立腰指導を行い、立腰姿勢の習慣化を図る。</p> <p>○ 1学年の学級活動において、栄養教諭の指導をとおして食に対して主体的な態度で関わる姿勢を身に付けさせる。</p> <p>○ 部活動では部活動指導員や外部指導者の専門性を生かし、練習の充実に努める。</p>	<p>○ 体力向上プランに基づき、強化すべき項目を中心に、保健体育の授業をとおして、強化を図った。</p> <p>○ 小中合同ロードレース大会を12月3日に実施した。事前練習の取組をとおして、体力を向上させることの必要性や重要性を理解させ、自主的、意欲的に運動する態度の育成を図った。</p> <p>○ 立腰指導については、アンケート結果から、生徒が意識して取り組んでいるとは言えないという結果が明らかとなった。また、教師や保護者も取組の効果が十分出ているとは言えないという結果が見られた。</p> <p>○ 外部講師による食育については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの指導となったが、栄養教諭による食の指導を行うことができた。</p> <p>○ 部活動では、外部指導者の専門性は生かすことができた。（新体操部、女子ソフトテニス部）女子バレーボール部については、現在、外部指導者を探している。</p>
地域に貢献する人材の育成	<p>(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図る。</p> <p>(2) 地域や関係機関と連携し、外部人材の活用の活用を図ることで、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、手話教室（3年生）、社会人の声を聴く会（2、1年生）米作り体験（1年生）、地域の方々との交流会（1年）等、可能な限り体験活動を実施する。</p> <p>○ 体験活動を実施するにあたって、地域学校協働本部や関係機関との連携を進め、外部人材を活用することで学習の効果を高める。</p> <p>○ 「学校だより」や「学級通信」の発行、HPの更新をとおして地域や保護者に積極的に情報発信を行う。また、「安心安全メール」を用い、不審者情報等の注意喚起を行うとともに、教育活動の広報を行う。</p>	<p>○ 手話教室（3年生）、米作り体験・地域の方との交流会（1年生）を実施することができた。社会人の声を聞く会（1、2年生）の代わりは立志式と「卒業生の声を聞く会」を今年度内に実施する予定である。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、回数は制限されたが、地域学校協働本部や関係機関との連携を進め、体験活動等において、外部人材を活用することができた。</p> <p>○ 「学校だより」を定期的に発行することができた。一方で、「学級通信」については、学級によって発行回数異なり、情報発信が十分とは言えない。また、HPの更新については小中全体の更新は定期的に行ったが、中学部の回数が限られたのが反省点である。「安心メール」については適宜、活用を図ることができた。</p>